

監修：池袋西口ふくろう皮膚科クリニック 院長 藤本 智子 先生

● 原発性手掌多汗症とは

特に病気などの明らかな原因がないにもかかわらず、手のひら(手掌)に日常生活に支障をきたすほど、たくさんの汗が出てしまう状態です。

<原発性手掌多汗症の診断基準>¹⁾

手の多汗症状が6カ月以上続き、以下の6症状のうち2項目以上当てはまる場合、「原発性手掌多汗症」と診断されます。

1. 最初に手の多汗症状が出たのが25歳以下
2. 左右の手のひらに汗をかく
3. 睡眠中は発汗が止まっている
4. 1週間に1回以上、手の多汗症状がみられる
5. 家族に同じ症状の方がいる
6. 手汗のために日常生活に支障をきたしている

● 症状の重症度評価

自覚症状をもとに日常生活への支障の程度で評価します。HDSSの③と④に該当する場合は重症とされています。

<HDSS*(多汗症疾患重症度評価尺度)>^{1,2)}

①	発汗は全く気にならず、日常生活に全く支障がない。
②	発汗は我慢できるが、日常生活に時々支障がある。
③	発汗はほとんど我慢できず、日常生活に頻繁に支障がある。
④	発汗は我慢できず、日常生活に常に支障がある。

*HDSS:Hyperhidrosis disease severity scale

1) 藤本 智子ほか: 日本皮膚科学会雑誌 2023; 133(2): 157-188. より改変 ©日本皮膚科学会
2) Strutton DR, et al.: J Am Acad Dermatol 2004; 51(2): 241-248.

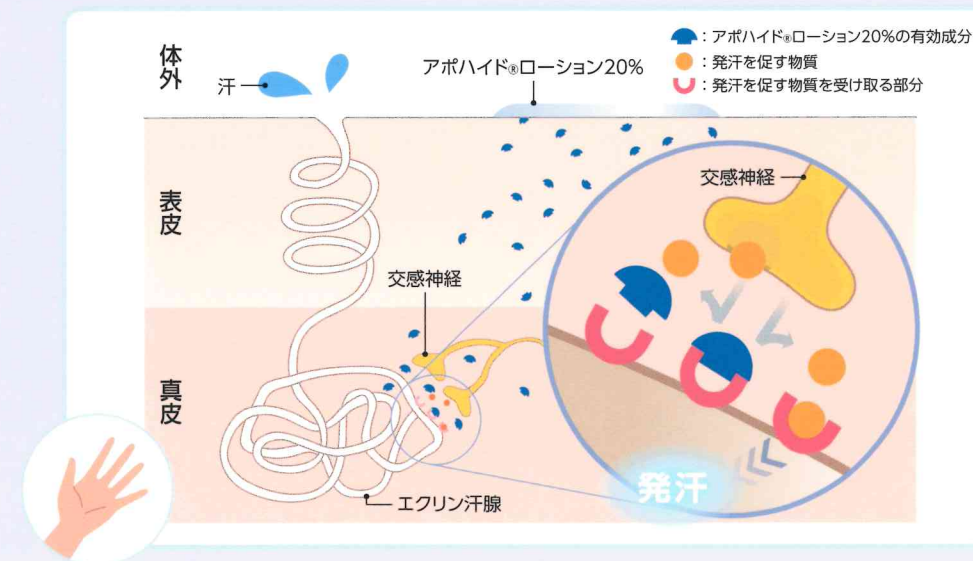
次に当てはまる方は、医師または薬剤師にお伝えください。

- ・年齢が12歳未満の方
- ・妊娠中または授乳中の方
- ・手に傷や湿疹、炎症がみられる方
- ・緑内障がある方
- ・前立腺肥大症など排尿に問題のある方
- ・不整脈のある方
- ・脳血管の障害がある方、認知症や認知機能に障害のある方
- ・パーキンソン症状のある方
- ・腎機能や肝機能の低下がみられる方
- ・次の疾患と診断されている方
甲状腺機能亢進症
うっ血性心不全
潰瘍性大腸炎
- ・手掌以外の部位の多汗症治療を現在行っている方

アポハイド®ローション20%について

アポハイド®ローション20%は、日本で初めて「原発性手掌多汗症」に対して保険適用が認められた外用薬です。

アポハイド®ローション20%は手のひらの皮膚から吸収され、皮膚の下にある交感神経から出される発汗を促す物質をブロックすることで、過剰な発汗を抑えることが期待されます。



アポハイド[®]ローション20%の使い方

・アポハイド[®]ローション20%は1日1回就寝前に、手のひらに塗るお薬です。
・お薬を塗った後は、起床後まで手を洗わないでください。

医療関係者用

1 お薬を塗る前に、手のひらの水分などをよく拭いてください。



2 手のひらにお薬を適量出してください。(1回分の目安は5プッシュです。)



※新しいお薬を最初にするときは薬液が出てくるまでティッシュペーパーなどの上で3~4回ポンプを空押ししてください。

3 左右の手のひらに均等に塗り広げます。



※手のひら以外の部位には使用しないでください。
※可燃性の成分を含むため、火気を避けて使用してください。

4 お薬を塗ったまま、就寝します。



※お薬が乾くまで寝具などに触れないようにしてください。

5 起床後は、手を流水でよく洗ってください。



※手を洗ったあと、再度お薬を塗る必要はありません。

アポハイド[®]ローション20%は毎日、塗り続けることで安定した効果が得られます。医師または薬剤師の指示に従って塗りましょう。

● 使用上の注意

- 意図せず洗い流されないように、手が濡れる行為は避けてください。
- お薬を塗った手を、気密性の高い手袋などで覆わないようにしてください。
- 起床後に手を洗うまでの間は、塗った箇所以外(目など)に触れないようにしてください。万が一目に入った場合は、すぐに水で洗い流してください。

<お薬を塗ったあとの注意>

起床後に手を洗うまでの間は、次のようなことを守ってください。

- 目や口をさわらないでください。(さわった場合は、水でゆすぐなどして洗い流してください。異常を感じる場合は医師または薬剤師に相談してください。)
- 顔や髪の毛などの体に触れないでください。
- 歯磨き、シャワー、コンタクトレンズの扱いなどは避けてください。
- 必要以上に他の人や物に触れないでください。



● 主な副作用

- ・塗ったところに炎症やかゆみ、湿疹などの皮膚の異常がみられる
- ・何日も便秘が続き、お腹が張って苦しく感じる
- ・口が渴く
- ・尿が出にくい、出ない
- など

上記のような症状があらわれた場合には、お薬の使用を中止し医師または薬剤師に連絡してください。

● その他の注意

- ・このお薬を使用中は自動車の運転など危険を伴う機械の操作にご注意ください。
- ・高温下での作業や、激しい運動、夏場などは体温の上昇にご注意ください。発汗を抑えるため、外の気温が上昇した際に、急に体温が上がるおそれがあります。

● 保管・廃棄方法

- **子どもの手や目の届かないところに保管してください。**
- このお薬は保管袋に入れて保管してください。
- 高温、火気を避けて保管してください。
- お薬が残っている場合は、火気を避けてお薬を紙や布などに吸収させて、可燃ごみとして捨ててください。
- ボトルはプラスチック製です。各自治体の分別ルールに従って捨ててください。



その他に何か異常が認められた場合には、お薬の使用を中止し、すぐに医師または薬剤師に相談してください。

